

(様式第9)

三大病医 第95号  
平成20年10月 2日

厚生労働大臣 殿

三重大学医学部附属病院長  
内田淳

### 三重大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法第12条の3の規定に基づき、平成19年度の業務について報告します。

記

1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照（様式第10）

2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照（様式第11）

3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	19人
--------	-----

4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法

→ 別紙参照（様式第12）

5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績

→ 別紙参照（様式第13）

6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績

→ 別紙参照（様式第13）

7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医 師	178人	126人	303.3人	看護業務補助者	65人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	8人	15人	23.0人	理学療法士	4人	臨床検査技師	45人
薬剤師	21人	15人	34.7人	作業療法士	1人	衛生検査技師	1人
保健師	0人	0人	0人	視能訓練士	2人	そ の 他	3人
助産師	19人	1人	19.4人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	318人	85人	372.7人	臨床工学技士	13人	医療社会事業従事者	4人
准看護師	5人	4人	7.1人	栄養士	0人	その他の技術員	13人
歯科衛生士	0人	5人	4.0人	歯科技工士	2人	事務職員	140人
管理栄養士	5人	2人	6.5人	診療放射線技師	31人	そ の 他 の 職 員	18人

8 入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科及び小児歯科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	517.8人	10.6人	528.4人
1日当たり平均外来患者数	1065.6人	79.9人	1145.5人
1日当たり平均調剤数	578.1剤		

9 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況、医療に係る安全管理を行う部門の設置状況

→ 別紙参照（様式第13の2）

1.0 病院内の患者からの相談に適切に応じる体制の確保状況、医療に係る安全管理のための指針の整備状況

→ 別紙参照（様式第13の2）

1.1 安全管理の体制確保のための委員会の開催状況、安全管理の体制確保のための職員研修の開催状況

→ 別紙参照（様式第13の2）

1.2 医療機関内における事故報告等の整理 → 別紙参照（様式第13の2）

(様式第10)

## 高度の医療の提供の実績

## 1 先進医療の届出受理の有無及び取扱い患者数

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
・高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術	有・ <input checked="" type="checkbox"/>	0人
・膝靭帯再建手術における画像支援ナビゲーション	有・ <input checked="" type="checkbox"/>	0人
・凍結保存同種組織を用いた外科治療	有・ <input checked="" type="checkbox"/>	0人
・胎児心超音波検査	有・ <input checked="" type="checkbox"/>	0人
・インプラント義歯	(有)・無	13人
・顎面補綴	有・ <input checked="" type="checkbox"/>	0人
・顎関節症の穂綴顎的治療	有・ <input checked="" type="checkbox"/>	0人
・経皮的埋め込み電極を用いた機能的電子刺激療法	有・ <input checked="" type="checkbox"/>	0人
・人工括約筋を用いた尿失禁の治療	有・ <input checked="" type="checkbox"/>	0人
・光学印象探得による陶材歯冠修復法	有・ <input checked="" type="checkbox"/>	0人
・経皮的レーザー椎間板減圧術	有・ <input checked="" type="checkbox"/>	0人
・造血器腫瘍細胞における薬剤耐性遺伝子産物P糖蛋白の測定	有・ <input checked="" type="checkbox"/>	0人
・スキンドファイバー法による悪性高熱症診断法	有・ <input checked="" type="checkbox"/>	0人
・CTガイド下気管支鏡検査	有・ <input checked="" type="checkbox"/>	0人
・先天性血液凝固異常症の遺伝子診断	(有)・無	3人
・筋強直性又は筋緊張性ジストロフィーのDNA診断	有・ <input checked="" type="checkbox"/>	0人
・SDI法による抗悪性腫瘍感受性試験	有・ <input checked="" type="checkbox"/>	0人
・三次元形状解析による顎面の形態的診断	有・ <input checked="" type="checkbox"/>	0人
・HDRA法又はCD-DST法による抗悪性腫瘍感受性試験	有・ <input checked="" type="checkbox"/>	0人
・子宮頸部前がん病変のHPV-DNA診断	有・ <input checked="" type="checkbox"/>	0人
・腹腔鏡下肝切除去	有・ <input checked="" type="checkbox"/>	0人
・悪性腫瘍に対する粒子線治療	有・ <input checked="" type="checkbox"/>	0人
・エキシマレーザーによる治療的角膜切除術	有・ <input checked="" type="checkbox"/>	0人
・成長障害のDNA診断	有・ <input checked="" type="checkbox"/>	0人
・乳房漏存療法における鏡視下腋窩郭清術	有・ <input checked="" type="checkbox"/>	0人
・声帯内自家側頭筋膜移植術	有・ <input checked="" type="checkbox"/>	0人
・骨髄細胞移植による血管新生療法	(有)・無	0人
・ミトコンドリア病のDNA診断	有・ <input checked="" type="checkbox"/>	0人
・鏡視下肩峰下腔除圧術	有・ <input checked="" type="checkbox"/>	0人
・神経変性疾患のDNA診断	有・ <input checked="" type="checkbox"/>	0人
・難治性眼疾患に対する羊膜移植術	有・ <input checked="" type="checkbox"/>	0人
・重粒子線治療	有・ <input checked="" type="checkbox"/>	0人
・脊椎腫瘍に対する腫瘍脊椎骨全摘術	有・ <input checked="" type="checkbox"/>	0人
・31磷一磁気共鳴スペクトロスコピーとケミカルシフト画像による糖尿病性足病変の非侵襲診断	有・ <input checked="" type="checkbox"/>	0人
・固体腫瘍(神経芽腫)のRNA診断	有・ <input checked="" type="checkbox"/>	0人
・硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療	有・ <input checked="" type="checkbox"/>	0人

高 度 先 進 医 療 の 種 類 (医 科)	承 認	取 扱 い 患 者 数
・重症B C G副反応症例における遺伝子診断	有・無	0人
・骨軟部腫瘍切除後骨欠損に対する自家液体窒素処理骨移植	有・無	0人
・肺腫瘍に対する腹腔鏡補助下肺切除術	有・無	0人
・低悪性度非ホジキンリンパ腫の遺伝子診断	有・無	0人
・悪性脳腫瘍に対する抗悪性腫瘍治療における薬剤耐性遺伝子解析	有・無	0人
・Q熱診断における血清抗体価測定および病原体遺伝子診断	有・無	0人
・エキシマレーザ冠動脈形成術	有・無	0人
・活性化Tリンパ球移入療法	有・無	0人
・家族性アルツハイマー病の遺伝子診断	有・無	0人
・膀胱尿管逆流症に対する腹腔鏡下逆流防止術	有・無	0人
・三次元再構築画像による股関節疾患の診断と治療	有・無	0人
・泌尿生殖器腫瘍の後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術	有・無	0人
・HLA抗原不一致血縁ドナーからのCD34陽性造血細胞移植	有・無	0人
・頸椎椎間板ヘルニアに対するヤグレーザーによるCT透視した経皮的椎間板減圧術	有・無	0人
・ケラチン病の遺伝子診断	有・無	0人
・隆起性皮膚線維肉腫の遺伝子診断	有・無	0人
・末梢血幹細胞による血管再生治療	有・無	0人
・末梢血単核球移植による血管再生治療	有・無	0人
・一級毛膜性双胎妊娠において発症した双胎間輸血症候群に対する内視鏡的胎盤物吻合血管レーザー焼灼術	有・無	0人
・カラー蛍光観察システム下気管支鏡検査及び光線力学療法	有・無	0人
・先天性銅代謝異常症の遺伝子診断	有・無	0人
・超音波骨折治療法	有・無	0人
・CYP2C19遺伝子多型検査に基づくテーラーメイドのヘリコバクター・ヒッコリ菌療法	有・無	0人
・非生体ドナーから採取された同種骨・韌帯組織の凍結保存	有・無	0人
・X線CT画像診断に基づく手術用顕微鏡を用いた歯根端切除手術	有・無	0人
・定量的CTを用いた有限要素法による骨強度予測評価	有・無	0人
・膀胱水圧拡張術	有・無	0人
・色素性乾皮症に係る遺伝子診断	有・無	0人
・先天性高インスリン血症に係る遺伝子診断	有・無	0人
・歯周外科治療におけるバイオ・リジエネレーション法	有・無	0人
・セメント固定人工股関節再置換術におけるコンピュータ支援フルオロナビゲーションを用いたセメント除去術	有・無	0人
・腹腔鏡下直腸固定術	有・無	0人
・骨運動術による関節温存型再建	有・無	0人
・肝切除手術における画像支援ナビゲーション	有・無	0人
・樹状細胞及び腫瘍抗原ペプチドを用いたがんワクチン療法(腫瘍抗原を発現する消化管悪性腫瘍)	有・無	0人
・自己腫瘍・組織を用いた活性化自己リンパ球移入療法	有・無	0人
・自己腫瘍・組織及び樹状細胞を用いた活性化自己リンパ球移入療法	有・無	0人

高 度 先 進 医 療 の 種 類 (医 科)	承 認	取 扱 い 患 者 数
・リアルタイム P C R 法を用いた迅速診断	(有)・無	0 人
・内視鏡下小切開泌尿器手術	(有)・無	27 人
・多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	有・(無)	0 人
・先天性難聴の遺伝子診断	有・(無)	0 人
・フェニルケトン尿症の遺伝子診断	有・(無)	0 人
・培養細胞による先天性代謝異常症	有・(無)	0 人
・腹腔鏡下子宮体がん根治手術	有・(無)	0 人
・培養細胞による脂肪酸代謝異常症又は有機酸代謝異常症の診断	有・(無)	0 人
・内視鏡下頸部良性腫瘍摘出術	有・(無)	0 人
・悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節の遺伝子診断	有・(無)	0 人
・腫瘍性骨病変及び骨粗鬆症に伴う骨脆弱性病変に対する経皮的骨形成術	(有)・無	6 人
・悪性黒色腫又は乳がんにおけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	有・(無)	0 人
・カフェイン併用化学療法	有・(無)	0 人
・胎児尿路・羊水腔シャント術	有・(無)	0 人
・筋過緊張に対する muscle afferent block (M A B ) 治療	有・(無)	0 人
・胸部悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	(有)・無	90 人
・腎悪性腫瘍に対するラジオ波焼却療法	(有)・無	12 人
・内視鏡下甲状腺がん手術	有・(無)	0 人
・骨腫瘍の C T 透視ガイド下経皮的ラジオ波焼灼療法	(有)・無	11 人
・早期胃がんに対する腹腔下センチネルリンパ節検索	(有)・無	9 人
・副甲状腺内活性型ビタミン D (アナログ) 直接注入療法	有・(無)	0 人

## 2 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾 患 名	取扱患者数	疾 患 名	取扱患者数
・ベーチェット病	57人	・モヤモヤ病(ウイルス動脈輪閉塞症)	30人
・多発性硬化症	45人	・ウェグナー肉芽腫症	2人
・重症筋無力症	120人	・特発性拡張型(うつ血型)心筋症	36人
・全身性エリテマトーデス	439人	・多系統萎縮症	3人
・スモン	4人	・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	5人
・再生不良性貧血	57人	・膿疱性乾癬	9人
・サルコイドーシス	83人	・広範脊柱管狭窄症	2人
・筋萎縮性側索硬化症	46人	・原発性胆汁性肝硬変	95人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	260人	・重症急性胰炎	4人
・特発性血小板減少性紫斑病	91人	・特発性大腿骨頭壞死症	1人
・結節性動脈周囲炎	15人	・混合性結合組織病	24人
・潰瘍性大腸炎	209人	・原発性免疫不全症候群	3人
・大動脈炎症候群	21人	・特発性間質性肺炎	16人
・ビュルガー病	0人	・網膜色素変性症	41人
・天疱瘡	53人	・プリオൺ病	0人
・脊髄小脳変性症	58人	・原発性肺高血圧症	10人
・クローン病	74人	・神経纖維腫症	14人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	7人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・悪性関節リウマチ	8人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	34人
・パーキンソン病関連疾患	259人	・特発性慢性肺血栓塞栓症(肺高血圧型)	0人
・アミロイドーシス	19人	・ライソゾーム病(ファブリー[Fabry]病)含む	0人
・後縦靭帯骨化症	62人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・ハンチントン病	0人		

### 3 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ② 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	1週間に 1回程度(3種類の検討会) 1か月に 2回程度(1種類の検討会) 1か月に 1回程度(2種類の検討会)
剖 檢 の 状 況	剖検症例数 19例 剖 檢 率 8.2%

## 高度の医療技術の開発及び評価の実績(平成19年度)

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(千円)	補助元又は委託元
多価性がんワクチン	珠玖 洋	遺伝子・免疫細胞治療学	21,100	補 科学研究費補助金
子宮内環境の悪化に起因する成長後の各種疾患発症機序の解析とその予防法の開発	佐川 典正	生殖病態生理学	12,870	補 科学研究費補助金
紀伊半島のALS・バーキンソンの原因と発症機構の分子生物学的研究	葛原 茂樹	神経病態内科学	10,790	補 科学研究費補助金
アクリジン色素とストロボ光を用いた骨・軟部肉腫の同時・瞬間的診断治療戦略の開発	楠崎 克之	腫瘍集学治療学	10,660	補 科学研究費補助金
生命維持機構としてのプロテインC凝固制御系の分子細胞学的研究	鈴木 宏治	分子病態学	9,880	補 科学研究費補助金
白血病幹細胞の自己複製能を担う分子機構と白血病発症に至る分子機序の解明	野阪 哲哉	感染症制御医学	8,580	補 科学研究費補助金
強心作用に関する新しい分子機序の解明、病態との関連解析と新しい治療法への応用	伊藤 正明	循環器内科学	8,450	補 科学研究費補助金
老化を促進する酸化損傷タンパク質の機能プロテオミクス解析と病的老化予防法の開発	及川 伸二	環境分子医学	7,800	補 科学研究費補助金
2光子レーザー顕微鏡生体内観察による中枢神経損傷後再生の確証提示と治療法の開発	溝口 明	神経再生医学・細胞情報学	7,670	補 科学研究費補助金
マラリア原虫スポロゾイトの肝臓感染機構の解明	油田 正夫	医動物・感染医学	7,410	補 科学研究費補助金
発がんにおける肥満と食飢性因子の多段階発がん機構への関与の解明とリスク評価	村田真理子	環境分子医学	7,150	補 科学研究費補助金
脳動脈瘤血管内治療に用いる新規デバイスの開発研究	滝 和郎	脳神経外科学	6,370	補 科学研究費補助金
DIF・PDEシグナルをターゲットとした悪性黒色腫細胞に対する分子標的薬の開発	村田 琢	歯科口腔外科	5,590	補 科学研究費補助金
癌治療の分子標的としてのプリン代謝酵素MTAP欠損の診断アルゴリズムの確立	登 勉	臨床検査医学	5,460	補 科学研究費補助金
ヒト認知機能を障害させる遺伝子異常を持つモデル動物の作出とその病態解析	岡田 元宏	精神病態学	4,550	補 科学研究費補助金
がんの骨転移に対する包括的分子生物学治療	内田 淳正	腫瘍集学治療学	4,550	補 科学研究費補助金
パニック障害の生物学的マーカーの開発	谷井 久志	精神病態学	3,770	補 科学研究費補助金
細胞治療を応用した大動脈疾患に対する新しい血管内治療法の臨床応用のための研究	下野 高嗣	胸部心臓血管外科学	3,770	補 科学研究費補助金
胚性幹細胞から誘導された神経堤幹細胞及び歯胚(歯髄)の幹細胞を用いた硬組織再生	山崎 英俊	再生統御医学	3,640	補 科学研究費補助金
小児癌細胞における細胞死誘導耐性化機序の解明とその克服手段の開発	駒田 美弘	小児発達医学	3,640	補 科学研究費補助金
間質細胞内TGFβ/BMPシグナルに制御される前立腺の異常増殖機構	石井健一朗	腎泌尿器外科	3,380	補 科学研究費補助金
癌幹細胞活性を指標にした新規白血病原因遺伝子の探索	野阪 哲哉	感染症制御医学	3,300	補 科学研究費補助金
外傷性嗅覚障害に対する嗅覚再生治療のための基礎研究	小林 正佳	耳鼻咽喉・頭頸部外科	2,900	補 科学研究費補助金
粘膜特異的サイトカイン発現能を有するウイルスベクターを用いた粘膜免疫療法	河野 光雄	感染症制御医学	2,860	補 科学研究費補助金
肥大心の間質線維化病変の可逆性に関する基礎的研究と治療法の開発	吉田 恵子 (今中 恵子)	修復再生病理学	2,860	補 科学研究費補助金
細胞内シグナルにより細胞接着能を変える電位依存性K+チャネルとシナプス形成機構	木村 一志	神経再生医学・細胞情報学	2,860	補 科学研究費補助金
繊維・粒子状物質による呼吸器疾患のニトロ化DNA損傷を指標としたリスク評価	平工 雄介	環境分子医学	2,730	補 科学研究費補助金
ヒト単球のランゲルハンス細胞への運命決定における皮膚組織環境の重要性	片山 直之	造血病態内科学	2,600	補 科学研究費補助金
悪性骨軟部腫瘍の光線力学療法における新たな腫瘍親和性光感受性物質の開発	楠崎 克之	腫瘍集学治療学	2,500	補 科学研究費補助金
環境化学物質の制御性T細胞機能抑制を介したアレルギー疾患増悪作用の検討	加藤 琢磨	生体防御医学	2,470	補 科学研究費補助金
多核白血球機能評価から検討した腹腔内癒着防止材の腹腔内感染への影響に関する研究	井上 幹大	周産母子センター	2,400	補 科学研究費補助金

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(千円)	補助元又は委託元
上皮間葉移行の気道リモデリングへの関与とその制御方法に関する検討	小林 哲	内科系診療科	2,340	補 科学研究費補助金
微少環境の変化に伴う椎間板性疼痛の発現とそのメカニズムの解明	笠井 裕一	整形外科	2,340	補 科学研究費補助金
バラミクソウイルスの細胞傷害性減弱化戦略の分子機構	鶴留 雅人	感染症制御医学	2,210	補 科学研究費補助金
高温曝露時(熱中症)における脳・心臓の急性反応の形態学的・分子生物学的検索	那谷 雅之	法医法科学	2,210	補 科学研究費補助金
プロテインC制御系因子の併用療法による急性肺傷害の抑制効果の解析	田口 修	呼吸器内科	2,210	補 科学研究費補助金
機械的脳塞栓・血栓除去用機材の開発と手技の確定に関する研究	朝倉 文夫	脳神経外科	2,210	補 科学研究費補助金
マウス胚性幹細胞に由来する多能性造血前駆細胞の解析	山根 利之	再生統御医学	2,100	補 科学研究費補助金
DIF・PDE1シグナルをターゲットとした悪性黒色腫に対するsiRNA療法	清水 香澄	歯科口腔外科	2,100	補 科学研究費補助金
多機能性バラミクソウイルスV蛋白の解析	西尾真智子	感染症制御医学	2,080	補 科学研究費補助金
上気道のリモデリングの特異性とその制御	竹内 万彦	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	2,080	補 科学研究費補助金
組織組み替え実験による前立腺肥大症の発生メカニズム解析	有馬 公伸	腎泌尿器外科	2,080	補 科学研究費補助金
プロテインCインヒビターによる腎細胞の癌化及び腫瘍内血管新生抑制機序の解析	林 辰弥	分子病態学	2,080	補 科学研究費補助金
前立腺形態発生に関わる腺領域特異的遺伝子の解析	杉村 芳樹	腎泌尿器外科	2,000	補 科学研究費補助金
糖尿病網膜症における小胞体ストレスの役割	生杉 謙吾	眼科	2,000	補 科学研究費補助金
原因遺伝子と酸化ストレスから見た肺高血圧の分子基盤:遺伝子改変マウスを用いた検討	三谷 義英	周産母子センター	1,950	補 科学研究費補助金
肝線維化への造血幹細胞の関与:単一細胞移植法を用いた肝星細胞起源の解明	榎屋 正浩	造血病態内科	1,950	補 科学研究費補助金
人工染色体を利用した新規マラリアワクチンの開発	油田 正夫	医動物・感染医学	1,700	補 科学研究費補助金
感染症・炎症に起因する発がんの新規バイオマーカーの開発とがん予防	村田真理子	環境分子医学	1,700	補 科学研究費補助金
胎児発育における抗酸化系機構の意義-チオレドキシン過剰発現マウスを用いた検討	梅川 孝	周産母子センター	1,700	補 科学研究費補助金
血管内皮細胞におけるコネキシン3.2の機能解析	岡本 貴行	分子病態学	1,700	補 科学研究費補助金
自閉症診療のための遺伝的因子及び生化学的バイオマーカー検索のための基盤的研究	成田 正明	口腔・顎顔面外科学	1,690	補 科学研究費補助金
障害心筋におけるエネルギー代謝異常と心筋バイアビリティ:核医学とMRIによる検討	竹田 寛	非侵襲診断治療学	1,690	補 科学研究費補助金
分子病態を基本とした前頭葉てんかんに対する薬力学的個別化治療の開発	岡田 元宏	精神病態学	1,600	補 科学研究費補助金
前立腺癌の発症・進展に関するメチル化によって制御される遺伝子の検索	山田 泰司	腎泌尿器外科	1,600	補 科学研究費補助金
血管内皮細胞を炎症性障害から保護する人工ペプチドの開発とその標的分子の探索	鈴木 宏治	分子病態学	1,600	補 科学研究費補助金
癌の抗原提示関連分子イムノエディティングと免疫監視回避機構の解析と対処法の開発	池田 裕明	がんワクチン講座	1,560	補 科学研究費補助金
細胞外マトリックス蛋白に着目した脳血管攣縮の病態解明と新しい治療法の開発	鈴木 秀謙	救急部	1,560	補 科学研究費補助金
シード肝炎ウイルスを介した肝細胞における鉄沈着調節メカニズムの解明	小林 由直	消化器・肝臓内科	1,560	補 科学研究費補助金
アトピー性皮膚炎に対する標的特異的変異型サイトカイン療法の有効性の検討	水谷 仁	皮膚医学・皮膚外科学	1,480	補 科学研究費補助金
サルモネラベクターを用いた制御性T細胞抑制機構の解明と新規癌ワクチン療法の開発	西川 博嘉	がんワクチン講座	1,330	補 科学研究費補助金
クロマチン修飾薬を用いた造血幹細胞増幅の試み	荒木 裕登	造血病態内科	1,330	補 科学研究費補助金
肺高血圧における神経堤由来細胞と骨髄由来細胞の関与:遺伝子改変マウスを用いた検討	大橋 啓之	小児科	1,300	補 科学研究費補助金
妊娠時インスリン抵抗性の機序に関する分子生物学的研究-酸化ストレスの関与	杉山 隆	周産母子センター	1,300	補 科学研究費補助金

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(千円)	補助元又は委託元
網羅的プロテオミクスによる慢性肝疾患の病態解析と分子標的の探索	白木 克哉	消化器・肝臓内科	1,300	補 科学研究費補助金
冠動脈M.R.Aと心筋パーフュージョンM.R.I定量解析による冠動脈疾患の総合的評価	佐久間 肇	中央放射線部	1,170	補 科学研究費補助金
上気道慢性炎症でのリモデリングにおけるTGF $\beta$ 1の役割	石永 一	耳鼻咽喉・頭頸部外科	1,100	補 科学研究費補助金
悪性腫瘍患者からの臓器移植は可能となるか—実験動物モデルを使って—	大澤 一郎	一般外科	1,070	補 科学研究費補助金
抗コリン作用を持つ薬剤は統合失調症患者の老年変化を促進するか	伊藤 雅之	精神科神経科	1,000	補 科学研究費補助金
下肢の血液還流および起立・歩行機能を改善させる爪切り法に関する実証的研究	本田 育美	基礎看護学	910	補 科学研究費補助金
スギ花粉症の新規治療法・舌下免疫療法の臨床評価と効果判定法の研究	湯田 厚司	耳鼻咽喉・頭頸部外科	910	補 科学研究費補助金
骨軟部腫瘍の肺転移に対する遺伝子治療	内田 淳正	腫瘍集学治療学	800	補 科学研究費補助金
尋常性乾癬、皮膚浸潤炎症細胞の解析と治療効果の解明	山中 恵一	皮膚科	800	補 科学研究費補助金
亜鉛代謝からみた脾広範切除後脂肪肝発生機序の解明と治療	伊佐地秀司	肝胆胰・乳腺外科学	780	補 科学研究費補助金
口腔癌でのP.D.E関連診断法の確立 一オーダーメイド治療に向かって—	田川 俊郎	口腔・顎顔面外科学	700	補 科学研究費補助金
タッチパネル式コンピュータによる高学歴専門職集団の痴呆の早期スクリーニング	葛原 茂樹	神経病態内科学	700	補 科学研究費補助金
類似症例検索に基づくマンモグラフィ診断支援システムの開発と地域医療への展開	中山 良平	中央放射線部	700	補 科学研究費補助金
開発途上国のアルツハイマー病及び生活習慣病の現状とその発症メカニズムを解明する	翠川 薫	神経病態内科学	650	補 科学研究費補助金
眼科低侵襲手術開発を目的とした術中前眼部構造動的変化の研究	宇治 幸隆	眼科学	650	補 科学研究費補助金
がん末期患者の苦痛症状緩和における代替・相補療法(温灸・吸角)に関する研究	大西 和子	成人看護学	600	補 科学研究費補助金
右室同期不全を有する慢性肺高血圧症に対する心臓再同期療法の効果	土肥 薫	循環器内科	600	補 科学研究費補助金
皮膚腫瘍における細胞分裂制御キナーゼの発現異常に関する研究	横山 智哉	皮膚科	500	補 科学研究費補助金
	82件		259,790	

## 2. 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Thromb Res. 2008;121(6) : 849-54. Epub 2007 Sep 27.	ADAMTS13 related markers and von Willebrand factor in plasma from patients with thrombotic microangiopathy (TMA).	Kobayashi T	血液内科 腫瘍免疫内科
Cancer Sci 2008 Mar;99(3) :601-7. Epub 2007 Dec 15.	Humoral immune responses in patients vaccinated with 1-146 HER2 protein complexed with cholesteryl pullulan nanogel.	Kageyama S	血液内科 腫瘍免疫内科
Blood (2007, April)	Chromatin modifying agents permit human hematopoietic stem cells to undergo multiple cell divisions while retaining their repopulating potential.	Araki H	血液内科
Leuk Res (2007, April)	Detection of CBFβ/MYH11 fusion gene in acute myeloid leukemia (AML) without inv(16); incidence in 218 Japanese AML cases.	Monma F	血液内科
Int J Hematol (2007, April)	Successful treatment of imatinib combined with less intensive chemotherapy (vincristine and dexamethasone) as induction therapy in a very elderly patient with Philadelphia chromosome-positive acute lymphoblastic leukemia.	Nishii K	血液内科
Thromb Res (2007, April)	Decreased ADAMTS13 activity in plasma from patients with thrombotic thrombocytopenic purpura.	Kobayashi T	血液内科
Int J Hematol (2007, May)	Selective blast cell reduction in elderly patients with acute myeloid leukemia secondary to myelodysplastic syndrome treated with methylprednisolone.	Suzuki K	血液内科
Int Med (2007, June)	Early tumor regression following severe lung injury after allogeneic stem cell transplantation in a patient with renal cell carcinoma.	Hoshino N	血液内科
Leukemia (2007, June)	Expression of the JAK2 V617F mutation is not found in de novo AML and MDS but is detected in MDS-derived leukemia of megakaryoblastic nature.	Nishii K	血液内科
Thromb Res (2007, August)	Reduced Cd4+ Cd25+ T cells in patients with idiopathic thrombocytopenic purpura.	Sakakura M	血液内科
Cancer Sci (2007, October)	Notch ligand Delta-1 differentially modulates the effects of gp130 activation on interleukin-6 receptor α-positive and -negative human hematopoietic progenitors.	Yamamura K	血液内科
Haemophilia (2008, January)	Central venous catheter-related thrombosis after replacement therapy for intracranial bleeding in a patient with afibrinogenemia.	Matsumoto T	血液内科
Biochem Biophys Res Commun (2008, February)	Calyculin A retraction of mature megakaryocytes proplatelets from embryonic stem cells.	Tamaru S	血液内科
Stem Cells (2008, February)	Ex vivo culture of human cord blood hematopoietic stem/progenitor cells adversely influences their distribution to other bone marrow compartments after intra-bone marrow transplantation.	Yamamura K	血液内科
Blood (2008, February)	Hematopoietic origin of hepatic stellate cells in the adult liver	Miyata E	血液内科
Oncol Rep. 2008 Mar;19(3) :755-9.	Alteration of the chemoresistant gene expression during chemotherapy for colon cancer: a molecular case report.	Toiyama Yuji (豊山裕二)	消化管外科
World J Surg. 2008 Mar 11.	Efficacy and Safety of Seprafilm: Systematic Review and Meta-Analysis.	Mohri Yasuhiko (毛利靖彦)	消化管外科
J Pediatr Surg. 2008 Feb;43(2) :e21-5.	A huge lymphovenous malformation in the retroperitoneum.	Kawamoto Aya (川本文)	小児外科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Dis Colon Rectum. 2008 Feb; 51(2) : 247-50.	Surgical intervention for neonatal and infantile-onset severe colonic Crohn's disease: report of three cases.	Uchida Keiichi (内田恵一)	小児外科
Eur J Pediatr Surg. 2007 Dec; 17(6) : 408-11.	Evaluation and treatment for spinal cord tethering in patients with anorectal malformations.	Uchida Keiichi (内田恵一)	小児外科
Surg Today. 2007; 37(12) : 1060-3.	Ultrasonically activated shears in gastrectomy for large gastric cancers.	Mohri Yasuhiko (毛利靖彦)	消化管外科
J Pediatr Surg. 2007 Oct; 42(10) : E5-8.	Superior mesenteric artery syndrome in an infant: case report and literature review.	Okugawa Yoshinaga (奥川喜永)	小児外科
J Gastroenterol. 2007 Sep; 42(9) : 730-6.	Effectiveness of gene expression profiling for response prediction of rectal cancer to preoperative radiotherapy.	Ojima Eiki (尾嶋英紀)	消化管外科
J Pediatr Gastroenterol Nutr. 2007 Sep; 45(3) : 363-5.	Percutaneous transesophageal gastrostomy (PTEG) placement in an infant.	Inoue Mikihiro (井上幹大)	小児外科
Dig Surg. 2007; 24(5) : 382-7.	2Prospective, randomized trial comparing a 3- versus 6-stitch purse-string suture in stapled hemorrhoidopexy.	Inoue Yasuhiro (井上靖浩)	消化管外科
J Exp Clin Cancer Res. 2007 Jun; 26(2) : 241-51.	Schedule-dependent cytotoxicity of 5-fluorouracil and irinotecan in p53 mutant human colon cancer.	Tanaka Koji (田中光司)	消化管外科
Dig Surg. 2007; 24(5) : 324-7.	An alternative conversion technique for salvaging a failed ileal J-pouch-anal anastomosis to a modified H-pouch.	Araki Toshimitsu (荒木俊光)	消化管外科
Oncol Rep. 2007 Aug; 18(2) : 369-75.	Does preoperative chemo-radiotherapy enhance the expression of vascular endothelial growth factor in patients with rectal cancer?	Inoue Yasuhiro (井上靖浩)	消化管外科
World J Gastroenterol. 2007 May 21; 13(19) : 2717-21.	TTYH2, a human homologue of the <i>Drosophila melanogaster</i> gene <i>tweety</i> , is up-regulated in colon carcinoma and involved in cell proliferation and cell aggregation.	Toiyama Yuji (間山裕二)	消化管外科
Br J Surg. 2007 Jun; 94(6) : 683-8.	Randomized clinical trial of single- versus multiple-dose antimicrobial prophylaxis in gastric cancer surgery.	Mohri Yasuhiko (毛利靖彦)	消化管外科
Surg Today. 2007; 37(5) : 383-8.	Randomized clinical trial comparing intravenous antimicrobial prophylaxis alone with oral and intravenous antimicrobial prophylaxis for the prevention of a surgical site infection in colorectal cancer surgery.	Kobayashi Minako (小林美奈子)	消化管外科
Dig Surg. 2007; 24(2) : 115-9.	Current surgical management of rectal cancer.	Kusunoki Masato (楠正人)	消化管外科
Surg Endosc. 2007 Aug; 21(8) : 1289-93.	Laparoscopy-assisted distal gastrectomy with laparoscopic sentinel lymph node biopsy after endoscopic mucosal resection for early gastric cancer.	Tonouchi Hitoshi (登内仁)	消化管外科
Dig Surg. 2008. 3	Maximizing Venous Outflow after Right Hepatic Living Donor Liver Transplantation with a Venous Graft Patch	水野修吳	肝胆脾外科
Clin Transplant. 2007. 4	Experiences and problems pre-operative anti-CD20 monoclonal antibody infusion therapy with splenectomy and plasma exchange for ABO-incompatible living-donor liver transplantation	臼井正信	肝胆脾外科
Hepatogastroenterology. 2007. 5	Use of an interpositional venous graft posterior to the pancreas for LDLT patients with portal vein thrombosis	水野修吳	肝胆脾外科
Am J Surg. 2007	Usefulness of breast-volume replacement using an inframammary adipofascial flap after breast-conservation therapy	小川朋子	乳腺外科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Annals of Thoracic and Cardiovascular Surgery (2007年10月)	Locally applied cilostazol suppresses neointimal hyperplasia and medial thickening in a vein graft model.	Yamamoto K,	心臓血管外科
Cardiovasc Research (2007年6月)	Tenascin-C synthesized in both donor grafts and recipients accelerates artery graft stenosis.	Sawada Y,	心臓血管外科
Nat Genet 2007年4月	A functional polymorphism in the 5' UTR of GDF5 is associated with susceptibility to osteoarthritis	Sudo A	整形外科
Int Orthop 2007年4月	Clinical profile of long-term survivors of breast or thyroid cancer with metastatic spinal tumours	Kasai Y	整形外科
In Vivo 2007年4月	Review. Acridine orange could be an innovative anticancer agent under photon energy	Matsumine A	整形外科
J Orthop Surg (Hong Kong) 2007年4月	Intra-osseous ganglion of the proximal humerus: a case report	Tsuji M	整形外科
Biochem Biophys Res Commun 2007年5月	Characterization of two types of osteoclasts from human peripheral blood monocytes	Sudo A	整形外科
J Orthop Res 2007年5月	Expression of large tenascin-C splice variants in synovial fluid of patients with rheumatoid arthritis	Hasegawa M	整形外科
Clin Exp Metastasis 2007年5月	Novel hyperthermia for metastatic bone tumors with magnetic materials by generating an alternating electromagnetic field	Matsumine A	整形外科
J Magn Reson Imaging 2007年6月	Soft-tissue tumors evaluated by line-scan diffusion-weighted imaging: influence of myxoid matrix on the apparent diffusion coefficient	Matsumine A	整形外科
Eur Spine J 2007年7月	Physical characteristics of patients with developmental cervical spinal canal stenosis	Kasai Y	整形外科
J Hand Surg [Am] 2007年7-8月	Calcium phosphate cement-assisted balloon osteoplasty for a colles' fracture on arteriovenous fistula forearm of a maintenance hemodialysis patient	Sudo A	整形外科
Biomarkers 2007年7-8月	Large-scale gene expression profiles, differentially represented in osteoarthritic synovium of the knee joint using cDNA microarray technology	Matsumine A	整形外科
J Arthroplasty 2007年9月	Acetabular reconstruction using a cementless cup and hydroxyapatite granules: 3- to 8-year clinical results.	Sudo A	整形外科
Int J Cancer 2007年9月	Protein C inhibitor inhibits breast cancer cell growth, metastasis and angiogenesis independently of its protease inhibitory activity	Uchida A	整形外科
Anticancer Res 2007年9-10月	Flash wave light strongly enhanced the cytoidal effect of photodynamic therapy with acridine orange on a mouse osteosarcoma cell line	Matsumine A	整形外科
Med Oncol 2007年10月	Primary osteosarcoma of the lung: a case report and review of the literature	Matsumine A	整形外科
Arch Orthop Trauma Surg 2007年10月	Effect of tourniquet application on deep vein thrombosis after total knee arthroplasty	Sudo A	整形外科
Osteoarthritis Cartilage 2007年10月	Changes in biochemical markers and prediction of effectiveness of intra-articular hyaluronan in patients with knee osteoarthritis	Hasegawa M	整形外科
J Surg Oncol 2007年10月	Expression of decorin, a small leucine-rich proteoglycan, as a prognostic factor in soft tissue tumors	Matsumine A	整形外科
Oncol Rep 2007年11月	8-Nitroguanine as a potential biomarker for progression of malignant fibrous histiocytoma, a model of inflammation-related cancer	Matsumine A	整形外科
Int J Oncol 2007年11月	Methylthioadenosine phosphorylase deficiency in Japanese osteosarcoma patients	Matsumine A	整形外科
Clin Appl Thromb Hemost 2007年12月	Elevated Levels of Prothrombin Fragment 1 + 2 Indicate High Risk of Thrombosis.	Sudo A	整形外科
J Rheumatol 2008年1月	Regulation of Tenascin-C Expression by Tumor Necrosis Factor-alpha in Cultured Human Osteoarthritis Chondrocytes	Hasegawa M	整形外科
J Arthroplasty 2008年1月	Treatment of infected hip arthroplasty with antibiotic-impregnated calcium hydroxyapatite	Sudo A	整形外科
Int Orthop 2008年1月	A long-term follow-up study of the cementless THA with anatomic stem/HGPII cup with 22-mm head	Hasegawa M	整形外科
Spine 2008年1月	Thoracic myelopathy with alkaptonuria	Akeda K	整形外科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Neurologist 2008年1月	Clinical symptoms of patients with intervertebral vacuum phenomenon	Kasai Y	整形外科
Acta Neurochir (Wien) 2008年1月	Cordeectomy for post-traumatic syringomyelia	Kasai Y	整形外科
Arch Orthop Trauma Surg 2008年1月	Subchondral insufficiency fracture of the second metatarsal head in an elderly woman treated with autologous osteochondral transplantation	Tsuji M	整形外科
J Orthop Res 2008年1月	Effect of osteogenic protein-1 on the matrix metabolism of bovine tendon cells	Akeda K	整形外科
Int Orthop 2008年2月	Clinical profile of long-term survivors of breast or thyroid cancer with metastatic spinal tumours: reply to Abdel-Wanis ME et al.	Kasai Y	整形外科
Int J Hematol 2008年2月	Negative predictive value of D-dimer for diagnosis of venous thromboembolism	Sudo A	整形外科
Med Sci Monit 2008年2月	Hypertrophic change of facet joint in the cervical spine	Kasai Y	整形外科
Acta Radiol 2008年2月	Foreign-body granulomas in the trunk and extremities may simulate malignant soft-tissue tumors: report of three cases	Nakamura T	整形外科
Oncol Rep 2008年2月	Prognostic implication of SYT-SSX fusion type in synovial sarcoma: a multi-institutional retrospective analysis in Japan	Matsumine A	整形外科
Histol Histopathol 2008年2月	Pathomechanism of entrapment neuropathy in diabetic and nondiabetic rats reared in wire cages	Tsuji M	整形外科
Hum Mol Genet 2008年3月	A functional SNP in EDG2 increases susceptibility to knee osteoarthritis in Japanese	Sudo A	整形外科
日本産科婦人科栄養・代謝研究会誌 13(1) 50-51 2007	母体糖尿病における先天奇形発生と酸化ストレスの関連-human thioredoxin-1 (hTRX-1) 過剰発現マウス (Tg) を用いた検討-	神元有紀	産科婦人科
日本産科婦人科栄養・代謝研究会誌 13(1) 56-57 2007	妊娠糖尿病 (GDM) におけるインスリン抵抗性とインスリン分泌能に関する検討	長尾賢治	産科婦人科
日本産科婦人科栄養・代謝研究会誌 13(1) 64-65 2007	胎児発育における胎盤抗酸化系機構の意義-human thioredoxin-1 (hTRX-1) 過剰発現マウスを用いた検討	梅川 孝	産科婦人科
Molecular and Cellular Biochemistry 300 (No. 1-2) 239-247 2007	Analysis on the promoter region of human decidual prolactin gene in the progesterone-induced decidualization and cAMP-induced decidualization of human endometrial stromal cells	Hiroyuki Minoura	産科婦人科
Placenta 28, Supplement A, Trophoblast Research 21 48-50 2007	Oxidative Stress and Pregnancy Outcome: A Workshop Report	T. Umekawa	産科婦人科
Cancer Science 98(7) 964-972 2007	Nitrative and oxidative DNA damage in cervical intraepithelial neoplasia associated with human papilloma virus infection	Tsutomu Tabata	産科婦人科
Cloning and Stem Cells 9(2) 144-156 2007	Primate embryonic stem cells proceed to early gametogenesis in vitro	Takeshi Teramura	産科婦人科
Cloning and Stem Cells 9(4) 485-494 2007	A mouse and embryonic stem cell derived from a single embryo	Teramura T	産科婦人科
J Thorac Cardiovasc Surg	Reversal of increased pulmonary arterial pressure associated with systemic venous collaterals after tonsillectomy in a Fontan candidate after the Glenn procedure: impact of obstructive sleep apnea on Fontan circulation.	澤田博文	小児科
J Thorac Cardiovasc Surg	Fate of the "opened" arterial duct: Lessons learned from bilateral pulmonary artery banding for hypoplastic left heart syndrome under the continuous infusion of prostaglandin E1.	三谷義英	小児科
Cancer Sci	Cell cycle dependency of caspase activation in Fas-induced apoptosis in leukemia cells.	駒田美弘	小児科
J Pediatr Hematol Oncol	Radiofrequency ablation used for the treatment of frequently recurrent rhabdomyosarcom in the masticator space in a 10-year-old girl.	熊本忠史	小児科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Chest	A unclear factor-kappaB inhibitor pyrrolidin dithiocarbamate ameliorates pulmonary hypertension in rats.	澤田博文	小児科
J Thromb Haemost	Protease activated receptor 1 activation of platelet is associated with an increase in protein kinase CK2 activity.	駒田美弘	小児科
Lung 2007年8月	A novel inhibitor of inducible nitric oxide synthase, ono-1714, does not ameliorate hypoxig-induced pulmonary hypertension in rats.	Kazuo Maruyama	麻酔科、ICU
Bio-medical Materials and engineering. 2007;17(6):367-78.	A novel method to evaluate vertebral remodeling by radiography following anterior cervical decompression and interbody fixation with cylindrical cages:A contrast-comparing method using "Scion image"	倉石 慶太	脳神経外科
Surgical Neurology. 2007Oct;68(4):431-7.	Access site complications with carotid angioplasty and stenting.	Taha M	脳神経外科
Journal of Neuroradiology. 2007;34:228-235.	Apparent diffusion coefficient of pituitary macroadenoma evaluated with line-scan diffusion-weighted imaging.	C. Suzuki	放射線科
Academic Radiology. 2007Sep;14(9):1020-8.	Apparent Diffusion Coefficient of Subcutaneous Epidermal Cysts in the Head and Neck:Comparison With Intracranial Epidermoid Cysts	Chiori Suzuki	放射線科
American Journal of Pathology. 2007;171(4):1258-68.	Bcl-w Protects Hippocampus during Experimental Status Epilepticus	畠崎 聖二	脳神経外科
Journal of Neuroradiology. 2007;34:212-215.	Melanotic neuroectodermal tumor of infancy in the skull:CT and MRI features	C. Suzuki	放射線科
Neuroscience. 2007Dec;150(2):467-77.	Microarray profile of seizure damage-refractory hippocampal CA3 in a mouse model of epileptic preconditioning.	畠崎 聖二	脳神経外科
Journal of Neuro-Oncology. 2007;82:319-321.	MRI findings of atypical meningioma with microcystic changes	Nobuyoshi Matsushima	放射線科
Journal of Neuro-Oncology. 2007;82:171-174.	MRI findings of malignant transformation of epidermoid cyst:case report	Hiroshi Komada	放射線科
Journal of Neuro-Oncology. 2007;84:213-216.	MRI of primary spinal atypical teratoid/rhabdoid tumor:a case report and literature review	Hiroshi Komada	放射線科
Journal of Neuroradiology. 2007Oct;34(4):267-71.	Percutaneous angioplasty and stenting of subclavian arteries before surgical coronary revascularization in a patient with an aberrant right subclavian artery	Taha M	脳神経外科
Stroke. 2007;38:2633-2639.	Randomized Trial of Intraarterial Infusion of Urokinase Within 6 Hours of Middle Cerebral Artery Stroke The Middle Cerebral Artery Embolism Local Fibrinolytic Intervention Trial	滝 和郎	脳神経外科
脳卒中 Vol. 29 No. 2 Feb 2007 p34	くも膜下出血後後水頭症と脳脊髄液中テネイシンC濃度との関連	鈴木 秀謙	脳神経外科
脳と循環 Vol. 12 No. 3 Mar 2007 p37-42	血管内治療と抗血小板療法	当麻 直樹	脳神経外科
神経治療学 Vol. 24 No. 5 2007	神経内視鏡術前評価が有用であった神経サルコイドーシスによる慢性水頭症の1例	新堂晃大	神経内科
Urology 70:407-411, 2007	Image-guided radiofrequency ablation for adrenocortical adenoma with Cushing syndrome: outcomes after mean follow-up of 33 months.	Kiminobu Arima	腎泌尿器外科
Inter J Urol 14:585-590, 2007	Percutaneous radiofrequency ablation with transarterial embolization is useful for treatment of stage 1 renal cell carcinoma with surgical risk: Results at 2-year mean follow-up.	Kiminobu Arima	腎泌尿器外科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Jpn J Clin Oncol, 37 : 750-4, 2007	Assessment of health-related quality of life after radiofrequency ablation or laparoscopic surgery for small renal cell carcinoma: a prospective study with medical outcomes Study 36-Item Health Survey (SF-36).	Yoshiki Sugimura	腎泌尿器外科
Japanese Journal of Endourogy and ESWL, 20(1) : 137-142, 2007	高出力(80W)KPTレーザーによる前立腺蒸散術(PVP)-70ml以上の前立腺肥大症33例の経験-	杉村 芳樹	腎泌尿器外科
最新医学社 木原和徳・編 最新医学別冊 新しい診断と治療のABC45 腎癌・膀胱癌 第1章 腎癌:68-74, 2007	手術(3)腎温存:ラジオ波熱凝固術	杉村芳樹	腎泌尿器外科
Neurosci Res. 2007 Sep;59(1) :107-12. Epub 2007 Jun 7.	Frontal dysfunction during a cognitive task in drug-naive patients with panic disorder as investigated by multi-channel near-infrared spectroscopy imaging.	西村 幸香	精神科 神経科
BMB Rep. 2008 Feb 29;41(2) :139-45.	Guinea pig cysteinyl leukotriene receptor 2 (gpCysLT2) mediates cell proliferation and intracellular calcium mobilization by LTC4 and LTD4.	Ito Yoshiyuki	皮膚科
Int J Dermatol. 2008 Jan;47(1) :48-9. No abstract available.	Clinical and histopathological features in Henoch-Schönlein purpura.	Takagi Emiko	皮膚科
J Eur Acad Dermatol Venereol. 2008 Mar;22(3) :353-5. Epub 2007 Nov 12.	Keratin and filaggrin expression in keratoacanthoma.	Ito Yoshiyuki	皮膚科
J Dtsch Dermatol Ges. 2007 Nov;5(11) :1010-4. English, German.	A case of Adamantiades-Behçet disease with ischemic optic neuritis (posterior optic neuropathy).	Shima Satoko	皮膚科
J Dtsch Dermatol Ges. 2008 Jan;6(1) :40-3. Epub 2007 Oct 18. English, German.	Necrobiotic xanthogranuloma with paraproteinemia; an atypical case.	Ito Yoshiyuki	皮膚科
J Cutan Pathol. 2007 Sep;34(9) :675-8.	Cytokeratin expression in squamous cell carcinoma arising from hidradenitis suppurativa (acne inversa).	Kurokawa Ichiro	皮膚科
J Cutan Pathol. 2007 Apr;34(4) :338-41.	Cytokeratin and filaggrin expression in nevus comedonicus.	Kurokawa Ichiro	皮膚科
Asain J Oral maxillofac Surg 19(2007)	Squamous cell carcinoma of the lower lip in an elderly patient with xeroderma Pigmentosum.	Hiramoto K	歯科口腔外科
Asain J Oral maxillofac Surg (2007)	Intranasal Wisdom Tooth	Kinosita M	歯科口腔外科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Jpn J Oral Diag/Oral Med (2007)	Pemphigus Vulgaris masqueraded as stomatitis of metal allergy.	Nakamura S	歯科口腔外科
Asain J Oral maxillofac Surg (2007)	Vascular Leiomyoma of the Median Upper Lip.	Tokuda T	歯科口腔外科
J Oral Maxill ofac Surg (2007)	A case of Mucous cyst in the lingual retromolar region.	Narita M	歯科口腔外科
Jpn J Oral Diag/Oral Med (2007)	A case of Maxillary Ameloblastoma Extending into the Nasal Cavity Through the Maxillary Sinus.	Ohnishi Y	歯科口腔外科
Oncology Report (2007)	Bax gene therapy using cationic liposome of human osteosarcoma.	Okumura K	歯科口腔外科
口腔組織培養学会誌 (2007)	ラット頸下腺でのcAMP specific Phosphodiesterase4の発見。	清水 香澄	歯科口腔外科
口腔組織培養学会誌 (2007)	週齢によるマウス頸下腺でのPhosphodiesterase3発見の検討。	関田 素子	歯科口腔外科
Oral Surg Oral Med Oral Patho Oral Radiol Endod (2007)	Relationship between magnetic resonance imaging and histological finding in thrombosis in the oral and maxillofacial region : a case report.	Yanase S	歯科口腔外科
Amyotrophic Lateral Sclerosis (2007年10月)	Pressure ulcers in ALS patients on admission at a university hospital in Japan.	Hayashi Tomoyo	医療福祉支援センター
Pharmaceutical Research March 2008	Mechanism of UVA-dependent DNA damage induced by an antitumor drug dacarbazine in relation to its photogenotoxicity.	岩本 卓也	薬剤部
医療薬学 2007年4月	「実務実習モデルコアカリキュラム」に基づいた参加型医薬品情報実習の実施と評価—KS法を用いた小グループディスカッションとディベート形式の模擬薬事審議委員会—	村木 優一	薬剤部
Am J Kidney Dis. 2007	Tubulointerstitial nephritis associated with IgG4-related autoimmune disease.	Yoneda K	腎臓内科、血液浄化療法部
J Vasc Interv Radiol. 2007 Jul;18(7) :856-61.	Radiofrequency ablation combined with chemoembolization for the treatment of hepatocellular carcinomas 5 cm or smaller: risk factors for local tumor progression.	Takaki H	放射線科、消化器肝臓内科
Int J Urol. 2007 Jul;14(7) :585-90	Percutaneous radiofrequency ablation with transarterial embolization is useful for treatment of stage 1 renal cell carcinoma with surgical risk: results at 2-year mean follow up.	Arima K	放射線科、泌尿器科
Hepatogastroenterology. 2007 Jul-Aug;54(77) :1522-5.	Multimodality therapy using brachytherapy for caval tumor of hepatocellular carcinoma.	Ii N	放射線科、消化器肝臓内科
J Pediatr Hematol Oncol. 2007 Sep;29(9) :640-2.	Radiofrequency ablation used for the treatment of frequently recurrent rhabdomyosarcoma in the masticator space in a 10-year-old girl.	Nashida Y	放射線科、小児科
J Vasc Interv Radiol. 2007 Oct;18(10) :1258-63.	Clinical utility of coaxial reservoir system for hepatic arterial infusion chemotherapy.	Hamada A	放射線科
Cardiovasc Intervent Radiol. 2007 Oct 10.	Stent-Graft for the Management of Hepatic Artery Rupture Subsequent to Transcatheter Thrombolysis and Angioplasty in a Liver Transplant Recipient.	Yamakado K	放射線科、肝胆脾移植外科
J Gastroenterol Hepatol. 2008 Mar;23(3) :482-90.	Survival rates according to the Cancer of the Liver Italian Program scores of 345 hepatocellular carcinoma patients after multimodality treatments during a 10-year period in a retrospective study.	Yamagiwa K	放射線科、肝胆脾移植外科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Br J Radiol. 2008 Mar; 81 (963) : 244-9.	Complications after lung radiofrequency ablation: risk factors for lung inflammation.	Nomura M	放射線科
肺癌(H19年8月20日)	胸腺癌と原発性肺癌の同時重複癌の手術例	樽川 智人	呼吸器外科
General Thorac Cardiovasc Surgery. 2007 Aug; 55 (8) : 335-8.	Pulmonary histoplasmosis as an example of imported mycoses in Japan.	Shimamoto A.	呼吸器外科
Neuroradiology. 2007 Mar; 49 (3) : 243-51.	Preclinical testing of a new clot-retrieving wire device using polyvinyl alcohol hydrogel vascular models	朝倉 文夫	脳神経外科
モダンフィジジョン. 2007; 26 (10) : 1396-1401.	内頸動脈狭窄症に対する外科的治療	種村 浩	脳神経外科
臨床神経学 2008年2月	厚生労働省特定疾患治療研究事業臨床調査個人票の集計結果からみたパーキンソン病患者の現況	谷口 彰	神経内科
臨床麻酔 vol. 32/No. 5 (2008-5)	エアウエイスコープで緊急気管挿管を行った急性甲状腺腫大の1例	桜庭 茂樹	臨床麻酔部
日本歯科麻酔学会雑誌第36巻第2号別刷	気管チューブイントロデューサガイド下にエアウエイスコープを用いた経鼻挿管の有用性	高山 啓禎	臨床麻酔部
Primary Care Japan 2007	Is the amount of information elicited from patients during a medical interview associated with patients likelihood of continuous care with their physician	Y Takemura	総合診療部
BMC Med Educ. 2007	Factors considered by medical students when formulating their specialty preferences in Japan: findings from a qualitative study.	Y Takemura	総合診療部
Tohoku J Exp Med. 2007	Identifying medical interview behaviors that best elicit information from patients in clinical practice.	Y Takemura	総合診療部
Family Medicine 2008	Which medical interview behaviors are associated with patient satisfaction?	Y Takemura	総合診療部
日本医事新報 2007	外来で使用できる医師についての患者満足度調査票	竹村 洋典	総合診療部
Gastrointest Endosc. 2008 Mar	Surface pattern classification by enhanced-magnification endoscopy for identifying early gastric cancers.	田中 匡介	光学医療診療部
Br J Cancer. 2008 Feb	Hepatic oxidative DNA damage is associated with increased risk for hepatocellular carcinoma in chronic hepatitis C.	田中 秀明	消化器・肝臓内科
J Gastroenterol Hepatol. 2007 Nov	Effect of lactoferrin in patients with chronic hepatitis C: combination therapy with interferon and ribavirin.	垣内 雅彦	消化器・肝臓内科
J Gastroenterol Hepatol. 2007 Nov	Hepatic iron accumulation is associated with disease progression and resistance to interferon/ribavirin combination therapy in chronic hepatitis C.	藤田 尚己	消化器・肝臓内科
Hepatogastroenterology. 2007 Mar	Hepatic arterial infusion of 5-fluorouracil in combination with subcutaneous interferon-alpha for advanced hepatocellular carcinoma.	黒田 誠	消化器・肝臓内科
Gastroenterol Hepatol. 2007 Apr	Restriction of dietary calories, fat and iron improves non-alcoholic fatty liver disease.	山本 実香	消化器・肝臓内科
Hepatogastroenterology. 2007 Apr-May	Lamivudine for treatment of spontaneous exacerbation and reactivation after immunosuppressive therapy in patients with hepatitis B virus infection.	井上 知子	消化器・肝臓内科

(様式第12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 内田 淳正					
管理担当者氏名	中央放射線部長 竹田 寛 総務課長 小川 幹夫 安全管理部長 竹田 寛 感染制御部長 竹田 寛	薬剤部長 医療サービス課長 医療福祉支援センター長 M E 室長	奥田 真弘 金永 博行 成田 有吾 竹田 寛			

		保管場所	分類方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院治療計画書	各 診 療 科	カルテは、外来：一患者各診療科カルテ、入院：一患者共通カルテ方式をとっている。 カルテは、①外来患者は外来カルテ庫、②入院患者は入院中は各科病棟、退院後は病歴室に保管。	
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業員者数を明らかにする帳簿	総 務 課	
	高度の医療の提供の実績	医療サービス課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	医療サービス課	
	高度の医療の研修の実績	総 務 課	
	閲覧実績	総 務 課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	医療サービス課	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医療サービス課 薬 剤 部	
規則第9条のための3体及び確保の状況各号に掲げる	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療サービス課 安全管理室	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	総 務 課	
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療サービス課 安全管理室	
	当該病院内に患者からの相談に適切に応じる体制の確保状況	医療サービス課 医療福祉支援センター	
	医療に係る安全管理のための指針	医療サービス課 安全管理室	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	総 務 課 医療サービス課 安全管理室	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	総 務 課 医療サービス課 安全管理室	

	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善の方策の状況	医療サービス課 安全管理室	
	院内感染のための指針の策定状況	総務課	
	院内感染対策のための委員会の開催状況	総務課	
	従業員に対する院内感染対策のための研修の実施状況	総務課	
	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善の方策の実施状況	総務課	
	医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	総務課	
	従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	総務課 薬剤部	
	医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
	医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善の方策の実施状況	薬剤部	
	医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	総務課	
	従業員に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	総務課 ME機器室	
	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	経営管理課 ME機器室	
	医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善の方策の実施状況	ME機器室	

(様式第13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲 覧 責 任 者 氏 名	病 院 長 内 田 淳 正
閲 覧 担 当 者 氏 名	総 務 課 長 小 川 幹 夫
閲覧の求めに応じる場所	医学部第二会議室

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前 年 度 の 総 閲 覧 件 数		延	0	件
閲 覧 者 別	医 師	延	0	件
	歯 科 医 師	延	0	件
	国	延	0	件
	地 方 公 共 団 体	延	0	件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹 介 率	73.1%	算定期間	平成19年 4月 1日～平成20年 3月31日
算 出 根 拠	A : 紹 介 患 者 の 数		9,819人
	B : 他 の 病 院 又 は 診 療 所 に 紹 介 し た 患 者 の 数		7,659人
	C : 救 急 用 自 動 車 に よ つて 搬 入 さ れ た 患 者 の 数		300人
	D : 初 診 の 患 者 の 数		16,675人

(様式13-2)

規則第9条の23及び第11条各号に掲げる体制の確保状況

① 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有(3名)・無
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有(2名)・無
③ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有・無
・所属職員 専任(3名) 兼任(11名) ・活動の主な内容: 安全管理部(危機管理委員会として平成12年6月12日設置、平成13年6月19日安全管理委員会に委員会名変更、平成14年4月1日同委員会を廃止し、安全管理室を設置、平成19年1月1日安全管理部に改組) 病院内における医療事故の防止及び医療の安全性の確保のため、安全且つ適切な医療体制を確立する。	
④ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有・無
⑤ 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
・指針の主な内容 <input type="radio"/> 安全管理に関する基本的な考え方 <input type="radio"/> 医療に係る安全管理のための指針 <input type="radio"/> 安全管理に係る組織図 <input type="radio"/> 医療問題対策委員会内規 <input type="radio"/> 安全管理部内規 <input type="radio"/> 重大インシデント発生時の院内連絡体制 <input type="radio"/> 医療の質・倫理検討委員会内規	別添資料 1 別添資料 2 別添資料 3 別添資料 4 別添資料 5 別添資料 6 別紙資料 7
⑥ 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	
○医療問題対策委員会 年13回(平成19年度) ○安全管理部会議 年19回(平成19年度) ○リスクマネージャー会議 年5回(平成19年度) ○医療の質・倫理検討委員会 年13回(平成19年度)	
・活動の主な内容 <input type="radio"/> 医療問題対策委員会 医療法制に関する事項、医療事故の予防に関する事項、医療事故発生時の対策に関する事項、医療紛争の処理に関する事項及び医療訴訟に関する事項の審議を行う。 <input type="radio"/> 安全管理部会議 インシデントレポートの収集と管理、報告された事故の原因や状況の分析、原因分析の結果を踏まえて事故発生の防止策と事故発生後の対応策を講じ、必要な情報を現場のスタッフにフィードバックする。 また、医療事故防止に係る病院内の巡視・点検・評価に関する事項、医療事故防止にかかる業務改善の提言・指導に関する事項、安全管理に係わる教育・研修・啓発に関する事項、医療事故防止対策マニュアルに関する事項、ヒヤリハットニュースの発行に関する事項、リスクマネージャー会議に関する事項。 <input type="radio"/> リスクマネージャー会議 医療問題対策委員会及び安全管理室会議において決定した事故防止策・対応策等の必要な情報を医療現場に周知徹底させる。 <input type="radio"/> 医療の質・倫理検討委員会 死亡例及び重症合併症例の検討、先端医療、終末期医療、診療拒否、移植医療、その他の倫理的問題について審議する。	

(7) 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況

年 3回

・研修の主な内容

従業者の医療安全に関する意識向上を図っている。

(全職員対象とは別に新規採用者のみを対象とした医療安全研修会及び全職員を対象とした医療事故被害者による講演等)

(8) 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善の方策の状況

・医療機関内における事故報告等の整備 (有・無)

・その他の改善の方策の主な内容:

- ヒヤリハットニュースを発行(月1回及び必要に応じて随時)し、リスクマネージャー会議を開催(年6回)することにより、リスクマネージャーを通じて、インシデントレポートから積極的に収集した情報並びに医療問題対策委員会、医療の質・倫理検討委員会及び安全管理部会議において決定した事故防止策・対応策等の必要な情報を医療現場に周知徹底する。
- 各医療現場のリスクマネージャーにより、医療事故の原因及び防止方法並びに医療体制の改善方法について独自に検討及び提言を行う。
- 各医療現場のリスクマネージャーにより、独自に事故防止のための研修会及び勉強会を開き、医療事故防止のための啓蒙活動を行う。

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	(有)・無										
<ul style="list-style-type: none"> <li>・指針の主な内容           <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 院内感染対策に関する基本的な考え方</li> <li>2. 委員会等の組織に関する基本的事項</li> <li>3. 職員研修に関する基本方針</li> <li>4. 発生状況の報告に関する基本方針</li> <li>5. 感染発生対応に関する基本方針</li> <li>6. 指針の閲覧に関する基本方針</li> <li>7. その他の必要な基本方針</li> </ol> </li> </ul>											
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 11回										
<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の主な内容           <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 院内感染の実態の把握、薬剤耐性の動向その他院内感染のための調査、研究を行う。</li> <li>2. 感染症患者及び健康保菌者等の取扱い、滅菌及び消毒、清潔区域及び医療材料の清潔保持その他院内感染防止のための予防対策を行う。</li> <li>3. 院内感染防止についての指針の作成及び職員の教育、指導を行う。</li> </ol> </li> </ul>											
<table border="1"> <tr> <td>直近開催日</td> <td>平成20年7月8日 (出席委員数 8人／9人中)</td> </tr> <tr> <td colspan="2">過去6ヶ月の出席委員数</td></tr> <tr> <td>(出席委員数 8人／9人中)</td><td>(出席委員数 7人／9人中)</td></tr> <tr> <td>(出席委員数 8人／9人中)</td><td>(出席委員数 8人／9人中)</td></tr> <tr> <td>(出席委員数 8人／9人中)</td><td>(出席委員数 9人／9人中)</td></tr> </table>		直近開催日	平成20年7月8日 (出席委員数 8人／9人中)	過去6ヶ月の出席委員数		(出席委員数 8人／9人中)	(出席委員数 7人／9人中)	(出席委員数 8人／9人中)	(出席委員数 8人／9人中)	(出席委員数 8人／9人中)	(出席委員数 9人／9人中)
直近開催日	平成20年7月8日 (出席委員数 8人／9人中)										
過去6ヶ月の出席委員数											
(出席委員数 8人／9人中)	(出席委員数 7人／9人中)										
(出席委員数 8人／9人中)	(出席委員数 8人／9人中)										
(出席委員数 8人／9人中)	(出席委員数 9人／9人中)										
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 3回										
<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修の主な内容           <p>従業者の感染管理に関する知識向上を図っている。 (手洗いの重要性・スタンダードプリコーションの遵守・結核について・新型インフルエンザ等)</p> </li> </ul>											
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善の方策の状況											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・病院における発生状況の報告等の整備</li> <li>・その他の改善にための方策の主な内容           <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域の感染対策強化を図るために、感染対策研修会（毎月1回）を行っている。</li> </ol> </li> </ul>											

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	(有)・無
② 従業者に対する医薬品の安全管理のための研修の実施状況	年1回 (同一内容で5回実施)
・研修の主な内容	
1. 麻薬の取扱いについて 2. 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書について	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
1. 手順書の作成 (有)・無 2. 業務の主な内容	
1. 医薬品の採用・購入に関する事項 2. 医薬品の管理に関する事項(麻薬等の管理方法等) 3. 患者の持参薬歴情報の収集方法、処方箋の記載方法 4. 患者に対する与薬や服薬指導に関する事項 5. 医薬品の安全使用に係る情報の取扱いに関する事項 6. 他施設(病院等、薬局等)との関係に関する事項	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善の方策の実施状況	
1. 医薬品に係る情報の収集の整備 (有)・無 2. その他の改善にための方策の主な内容	
<b>【収集方法】</b> 1. 医薬品に係る添付文書等の収集 2. メーカー等から収集 3. インターネット、文献等からの収集	
<b>【周知方法等】</b> 1. 薬剤部発行の院内医薬品情報誌に掲載し周知 2. オンライン医薬品集に「お知らせ」として掲載し周知 3. 必要に応じて院内メール、文書等の通知にて周知 4. 病棟担当薬剤師がカンファレンス等にて説明し周知	
<b>【改善方法等】</b> 1. 業務実施状況を確認し、必要に応じて手順書の改定を行う	

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	( <input checked="" type="checkbox"/> ) • 無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 6 回
・研修の主な内容	
1. 有効性、安全性に関する事項 2. 使用方法に関する事項 3. 保守点検に関する事項 4. 不具合が発生した場合の対応に関する事項 5. 使用に関して特に法令上遵守すべき事項	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・計画の作成 ( <input checked="" type="checkbox"/> ) • 無 ・保守点検の主な内容	
1. メーカー提供の点検マニュアル及びメーカー指示に従い実施 2. 日常点検を実施し、異常があればメーカー点検・修理	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善の方策の実施状況	
・医療機器に係る情報の収集の整備 ( <input checked="" type="checkbox"/> ) • 無 ・その他の改善にための方策の主な内容	
1. 装置毎に添付文書・保守点検マニュアル及び安全性情報を冊子として配布。 2. 管理、機器に関わる者に関してはWG等を設置し周知徹底を行う。	

## 安全管理に関する基本的な考え方

### 三重大学医学部附属病院の基本理念

#### 1 患者様本意の医療

患者様の信頼と満足が得られる最高・最良の医療を安全に提供します。

#### 2 地域と世界の医療への貢献

地域医療に貢献し、医学・医療の国際交流に努めます。

#### 3 臨床研究と人材育成の促進

未来を拓く臨床研究を推進し、次代を担う優れた医療人を育成します。

医学・医療の根元的目標は、健康を守り増進させ病を癒すことです。高度先進医療機関で教育と研究をも担っている大学病院も例外ではなく、最も基本的な使命は、患者様に最高・最先端の医療を「安全第一に」提供することです。

本院では、この使命と基本理念に沿って「患者様自身の自己決定権と地域社会のニーズを尊重し、高度先進医療からプライマリーケアまで、心温まる患者様中心の全人的・総合的・学際的医療を提供する」ことを目標に掲げ、診療活動に携わっています。また診療活動を通じて、高度な倫理観に裏打ちされた優れた医療人の育成を目指しています。

しかし近年は、医療の現場で生命を脅かすような事故や院内感染が多発し、社会的に大きな問題になっています。これらの多くは大学病院や地域の中核病院であり、複雑で困難な病気を持った患者様の受け皿となって高度医療を実践し、研修医や若い医療スタッフの養成にも大きなエネルギーを注いでいる医療機関です。複雑な医療を実践しているこのような大病院では、大きな事故が発生しやすいリスクは必然的に高くなりますので、安全管理には一層力を入れる必要があります。

本院では平成12年10月に発生した輸血事故を契機に、それまでの安全管理体制を大幅に見直しました。その結果、ミスや事故を起こさない個人を養成する教育だけでは不十分であるとの認識のもとに、たとえ個人のレベルでミスが発生しても、それが大きな事故に進展しない安全着地装置をシステムとして構築する、という二面作戦に切り替えました。

つまり、「ミスは何時でも、何処でも、誰にでも起こる」ということを前提に、「ミスは人の常、安全は組織の知恵」という思想に立脚した安全管理体制の構築です。それを組織的に保証する機関として平成14年度に「安全管理室」を設置し、診療担当副院長を責任者にして、専任の医師と看護師長を配置しました。安全管理室がリーダーシップをとって、「ミスを起こさない個人を育成する」職員研修、「個人のミスをチームとしてカバーし事故に進展させない」ためのチームづくりとリーダーであるリスクマネージャーの養成を実施し、病院全体として「ヒヤリハット報告」の活用、「ミスを事故に発展させない」システムづくり、さらに問題発生時の迅速な対応と予防対策に取り組むことができるようになり、本院の安全管理システムは飛躍的に強化されました。

今後も気を緩めることなく、全職員が一丸となって安全管理体制に取り組み、患者様にもご協力いただいて、良質で最高水準の高度医療を安全に提供することにより、信頼され満足いただける医療を築いていきたいと思います。

平成16年9月 病院長

## 第一章 三重大学医学部附属病院医療に係る安全管理のための指針

### 第1 安全管理に関する基本的な考え方

安心できる医療環境のもとで良質で高度な医療を適切に提供することは三重大学医学部附属病院の理念であり、その根幹をなすものは「安全性」の確保である。未然に事故を防止することは医療機関の責務であり、特定機能病院には一般病院以上に安全管理体制の整備・充実が求められている。

このために、安全管理に関する院内の責任体制を明確にし、「良質で高度な医療の提供」に際して求められる安全確保のための指針を制定する。

### 第2 安全管理のための委員会、その他医療機関内の組織に関する基本的事項

- 1 医療に係る安全管理体制の最高決定機関として安全管理に関わる部門の責任者等で構成する三重大学医学部附属病院医療問題対策委員会（以下「医療問題対策委員会」という。）を置き、病院長を委員長とし委員で構成する委員会を月1回以上開催する。  
医療問題対策委員会に関し必要な事項は、三重大学医学部附属病院医療問題対策委員会内規に定める。
- 2 安全管理推進の確保のため、ゼネラルリスクマネージャー及びその他各部門の安全管理責任者等で構成する三重大学医学部附属病院安全管理室（以下「安全管理室」という。）を置く。室員で構成する安全管理室会議を月2回以上開催する。  
安全管理室に関し必要な事項は、三重大学医学部附属病院安全管理室内規に定める。
- 3 医療に係る安全管理を専任で行う者としてゼネラルリスクマネージャーを置く。  
ゼネラルリスクマネージャーの業務等については、三重大学医学部附属病院安全管理室内規に定める。
- 4 医療現場での事故防止、安全管理の中心的な役割を担う者として、院内各部門にリスクマネージャーを置く。
- 5 医療の現場で具体的な安全対策を推進し、安全性の高い医療を提供するために安全管理室の下にリスクマネージャー会議を定期的に開催する。  
リスクマネージャー会議に関し必要な事項は三重大学医学部附属病院安全管理室内規に定める。
- 6 患者様等から苦情、相談に適切に応じる体制を確保するため三重大学医学部附属病院医療福祉支援センター（以下「支援センター」という。）を設置し、その活動を本院の安全対策等の見直しに活用するものとする。  
支援センターの活動の趣旨、設置場所、担当者及びその責任者、対応時間等については、院内に明示し周知を図る。  
その他、支援センターの設置に関し必要な事項は三重大学医学部附属病院医療福祉支援センター規程に定める。

7 その他本院における医療に係る安全管理体制に関し必要な事項は三重大学医学部附属病院安全管理室に定める。

### 第3 安全管理のための職員研修に関する基本方針

- 1 医療の安全管理のための職員研修（以下「研修」という。）は全職員を対象として年2回以上開催する。必要に応じ医療に係る安全管理のための基本的考え方及び具体的な方策について職員に周知徹底を行うことで個々の職員の安全に対する意識、安全に業務を遂行するための技能やチームの一員としての意識向上を図る。
- 2 研修参加者の学習達成の評価とともに具体的・現実的な目標を定め、目標達成の観点から評価する。
- 3 研修の実施内容や参加状況を記録に残し、それらの記録の積み重ねから研修の質的充実を図る。
- 4 その他研修に関し必要な事項は、安全管理室で定める。

### 第4 医療機関内における事故報告書等の医療に係る安全確保のための改善策に関する基本方針

安全管理室は、あらかじめ定められた手順により報告されたインシデントや医療事故及び他機関での医療の安全管理に関する事例の収集・分析に基づき、医療の安全管理の問題点を把握し病院全体の医療の安全管理や改善策の具体的な実践を指導監督するとともに、その実施状況を評価する。

### 第5 医療事故等発生の対応に関する基本方針

- 1 本院において医療事故が発生した場合、当事者は必要と考えられる医療上の最善の処置を講じ、患者様及び御家族等に誠実で適切な対応をするとともに、あらかじめ定められた手順により速やかに病院長に報告しなければならない。
- 2 安全管理室会議で医療事故と判定された場合の報告は、診療録や看護記録に基づき作成するものとする。
- 3 医療事故等発生時の報告・対応に関し必要な事項は別に定める。

## **第6 患者等に対する当該方針の閲覧に関する基本方針**

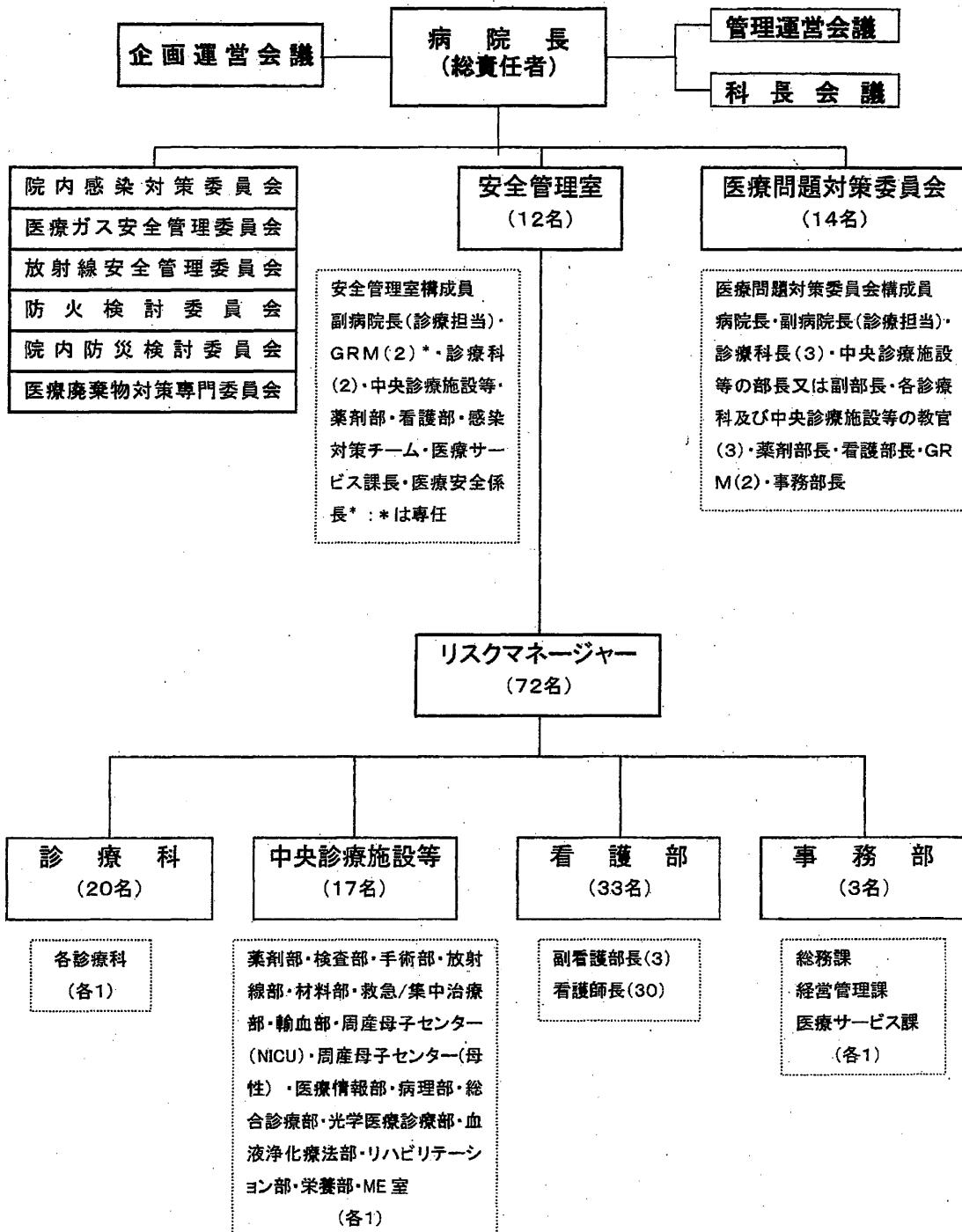
患者等が指針の閲覧を希望する場合は、閲覧に供する。

## **第7 その他医療安全の推進のために必要な基本方針**

- 1 安全管理室は各診療科等に共通するリスクマネージメントマニュアル（以下「マニュアル」という。）を、また、各診療科等はそれぞれの部門に特化したマニュアルを作成し、関係職員に周知して医療事故等の防止を図るものとする。作成したマニュアルは常に見直しを行い隨時改善するものとする。
- 2 医療の安全に関する広報紙の発行等により医療従事者に速やかに医療の安全に関する情報を提供する。
- 3 医療従事者の医療安全に関する意識向上を図るため、医療事故防止のためのポスター や標語を募集し、これらを院内に掲示することにより医療安全に関する患者等の理解の促進を図る。

## 5) 安全管理に係る組織図

(リスクマネージャーの配置状況等)



第1条 三重大学医学部附属病院（以下「病院」という。）は病院における医療事故の予防及び発生時の対応並びに医事紛争の処理に関し、常時、適切、かつ十分な行為を遂行していかなければならない。

第2条 病院に医療問題対策委員会（以下「委員会」という。）を置く。

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

一 病院長

二 副病院長（診療担当）

三 診療科長のうちから 3名

四 中央診療施設等の部長又は副部長のうちから 1名

五 各診療科及び中央診療施設等の大学教員から推薦された者 3名

六 薬剤部長

七 看護部長

八 ゼネラルリスクマネージャー

九 事務部長

十 その他病院長が必要と認めた者

2 前項第3号、第4号及び第5号の委員は、病院長が任命する。

3 第1項第3号、第4号及び第5号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

第4条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

一 医事法制に関する事項

二 医療事故の予防に関する事項

三 医療事故発生時の対策に関する事項

四 医事紛争の処理に関する事項

五 医療訴訟に関する事項

六 その他必要と認めた事項

第5条 委員会に委員長を置き、病院長をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名した委員が、その職務を代行する。

第6条 委員会が必要と認めたときは、委員以外の者を出席させ、その意見を聞くことができる。

第7条 委員会は、必要に応じて特別委員会を設置することができる。特別委員会の構成等については、その都度委員会において定める。

第8条 委員会の庶務は、病院事務部医療サービス課において行う。

#### 附 則

この内規は、平成16年4月1日から施行する。

#### 附 則

この内規は、平成18年4月1日から施行する。

## 三重大学医学部附属病院安全管理部規程

## (趣旨)

第1条 この規程は、三重大学医学部附属病院規程第15条第6項の規定に基づき、三重大学医学部附属病院安全管理部（以下「安全管理部」という。）の組織及び業務について必要な事項を定める。

## (目的)

第2条 安全管理部は、高度医療を提供する大学附属病院に求められている医療事故の防止及び医療の安全性の確保のため、病院長のもとに強い実行力を發揮し、安全かつ適切な医療体制を確立することを目的とする。

## (業務)

第3条 安全管理部は、次の各号に掲げる業務を行う。

- 一 「ヒヤリ・ハット報告書」の収集・調査・防止対策及び防止対策の周知徹底に関すること。
- 二 医療事故防止・安全管理に係わる病院内の巡視・点検・評価に関すること。
- 三 医療事故防止・安全管理に係わる業務改善の提言・指導に関すること。
- 四 安全管理に係わる教育・研修・啓発に関すること。
- 五 医療事故防止対策マニュアルに関すること。
- 六 リスクマネージャー会議に関すること。
- 七 その他医療の安全管理に関すること。

## (職員)

第4条 安全管理部に、次の各号に掲げる職員を置く。

- 一 部長
- 二 副部長
- 三 ゼネラルリスクマネージャー 2名
- 四 感染制御部の副部長及び看護師長
- 五 診療科から推薦された者 1名
- 六 中央診療施設等から推薦された者（医療情報部及び感染制御部を除く。） 2名
- 七 医療情報部から推薦された者 1名
- 八 薬剤部から推薦された者 1名
- 九 看護部から推薦された者 1名
- 十 医療サービス課長
- 十一 事務系の職員 若干名

## (任期)

第5条 前条第5号から第9号までの職員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、職員に欠員が生じた場合の補欠の職員の任期は、前任者の残任期間とする。

## (ゼネラルリスクマネージャー)

第6条 ゼネラルリスクマネージャーは、医師及び看護師長をもって充てる。

2 ゼネラルリスクマネージャーは、安全管理部専任とする。

## (リスクマネージャー会議)

第7条 安全管理部のもとにリスクマネージャー会議を置く。

2 リスクマネージャー会議は、部長が招集し、その議長となる。

3 リスクマネージャー会議は、ゼネラルリスクマネージャー及び次のリスクマネージャーをもって構成する。

- 一 各診療科から推薦された者 各1名
- 二 薬剤部、中央検査部、中央手術部、臨床麻酔部、中央放射線部、中央材料部、救急部、輸血部、周産母子センター（母性）、周産母子センター（N I C U）、集中治療部、医療情報部、病理部、総合診療部、光学医療診療部、血液浄化療法部、リハビリテーション部、栄養管理部及びM E室から推薦された者 各1名
- 三 副看護部長
- 四 看護師長

五 総務課、経営管理課及び医療サービス課より 各1名

4 リスクマネージャーは、次の各号に掲げる業務を行う。

一 「ヒヤリ・ハット報告」の積極的な収集並びに医療問題対策委員会及び安全管理部において決定した事故防止策・対応策等の必要な情報を医療現場に周知徹底する。

二 各医療現場において、医療事故の原因及び防止方法並びに医療体制の改善方法について、独自に検討及び提言する。

三 各医療現場において、独自に事故防止のための研修会及び勉強会を開き、医療事故防止のための啓蒙活動を行う。

四 その他医療事故の防止に関すること。

5 第3項に規定するリスクマネージャーは、病院長が任命する。

(雑則)

第8条 この規程に定めるもののほか、安全管理部に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

1 この規程は、平成19年1月1日から施行する。

2 三重大学医学部附属病院安全管理室内規（平成16年4月1日制定）は、廃止する。

3 この規程の施行の際現に廃止前の三重大学医学部附属病院安全管理室内規（平成16年4月1日制定）第4条第3号から第8号までの職員である者は、この規程の第4条第4号から第9号までの職員とみなし、その任期は、第5条の規定にかかわらず、従前の残任期間とする。

附 則

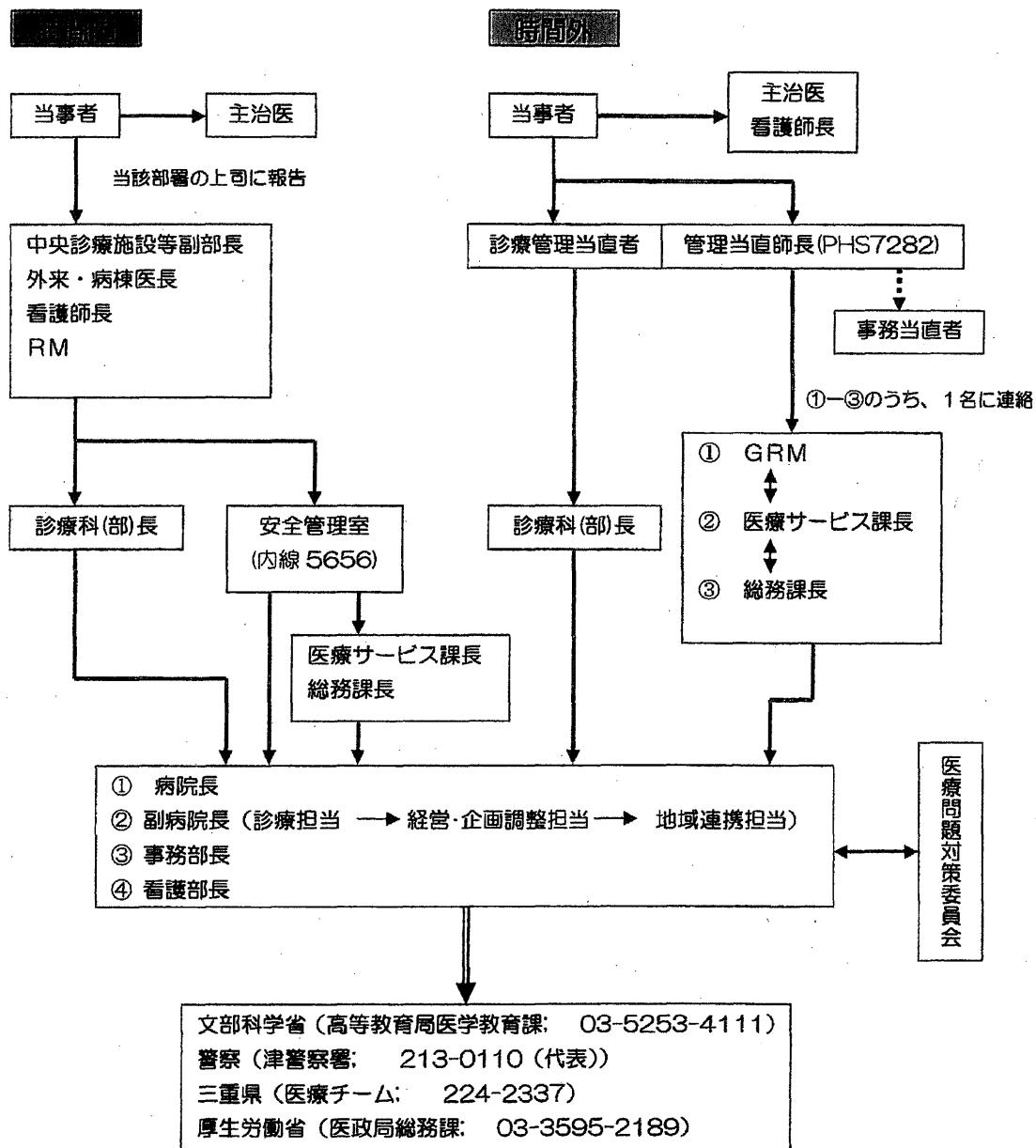
この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成19年5月2日から施行し、平成19年4月1日から適用する。

**重大インシデント発生時の連絡体制**

重大インシデントが発生した場合は患者様への対応を最優先し、下記の連絡体制により、口頭で直ちに報告すること。ヒヤリ・ハットレポートは現場が落ち着いてからの提出でよい。



→ 外部への連絡・報告については次項参照のこと。

.....→ 事務当直への連絡内容は管理当直師長日誌の記載事項とする。

## 三重大学医学部附属病院医療の質・倫理検討委員会規程

## (設置)

第1条 三重大学医学部附属病院に、三重大学医学部附属病院医療の質・倫理検討委員会（以下「委員会」という。）を置く。

## (審議事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項について審議する。

- 一 死亡例及び重症合併症例の検討等診療の質に関すること。
- 二 先端医療、終末期医療及び治療拒否における倫理的問題に関すること。
- 三 移植医療における倫理的問題に関すること。
- 四 その他診療における倫理的問題に関すること。

## (組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- 一 病院長
  - 二 副病院長
  - 三 病理部長
  - 四 薬剤部長
  - 五 看護部長
  - 六 副看護部長 1名
  - 七 診療科（精神科神経科を除く。）の常勤医師 2名
  - 八 精神科神経科及び臨床麻酔部の常勤医師 各1名
  - 九 安全管理部のゼネラルリスクマネージャー
  - 十 医療福祉支援センターの医療ソーシャルワーカー
  - 十一 三重大学大学院医学系研究科・医学部研究倫理委員会附属病院部会部会長
  - 十二 事務部長
  - 十三 医療サービス課長
  - 十四 倫理・法律分野の有識者 若干名
  - 十五 その他委員会が必要と認めた者
- 2 前項第14号の委員は、学外者又は三重大学大学院医学系研究科、医学部及び医学部附属病院以外の部局に属する者とする。
- 3 第1項第7号、第8号、第14号及び第15号の委員は、病院長が任命又は委嘱する。

## (任期)

第4条 前条第1項第7号、第8号、第14号及び第15号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員により補充された委員の任期は、前任者の残任期間とする。

## (委員長及び開催)

第5条 委員会に委員長を置き、病院長をもって充てる。

- 2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名した委員がその職務を代行する。
- 4 委員会は、原則として毎月1回開催する。ただし、委員長が必要と認めたときは、臨時に委員会を招集することができる。

## (申請手続)

第6条 第2条各2号から第4号に掲げる事項の審査を希望する者（以下「申請者」という。）は、倫理審査申請書（別紙様式第1）に必要事項を記入し、関係書類を添えて、所属の診療科長又は中央診療施設等の部長（以下「所属長」という。）を経て病院長に提出しなければならない。

## (会議)

第7条 委員会は、委員の過半数の出席により成立する。ただし、特に重要な事項については、三分の2以上の出席を必要とする。

- 2 委員会の議事は、出席委員全員の合意によるものとする。
- 3 第1項及び前項の規定にかかわらず、委員が審査対象となる事項の申請者又は所属長であるときは、当該事項に係る審査に参加することができない。

(委員以外の者の出席)

第8条 委員会が必要と認めたときは、委員以外の者を出席をさせ、意見又は説明を聞くことができる。

(審査結果の通知)

第9条 病院長は審査結果を審査結果通知書(別紙様式第2)により申請者に通知するものとする。

(実施状況の報告)

第10条 申請者は、前条の通知に基づき実施した内容について、実施状況報告書(別紙様式3)により所属長を経て病院長に報告しなければならない。

(庶務)

第11条 委員会の庶務は、医療サービス課において処理する。

(雑則)

第12条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

附 則

1 この規程は、平成18年10月4日から施行する。

2 この規程の施行後最初に任命又は委嘱される第3条第1項第7号、第13号及び第14号の委員の任期は、第4条の規定にかかわらず、平成20年3月31日までとする。

附 則

この規程は、平成19年1月1日から施行する。

附 則

1 この規程は、平成19年5月2日から施行し、平成19年4月1日から適用する。

2 この規程施行の際現に改正前の第3条第1項第7号の委員である者は、この規程の第3条第1項第7号及び第8号の委員とみなし、その任期は、第4条の規定にかかわらず、従前の残任期間とする。